

- 1面 横浜市認知症等「見守りシール事業」への登録を！
- 2面 認知症高齢者等SOSネットワーク子育て支援拠点

横浜市認知症等見守りシール事業への登録を！

行方不明になった認知症の方が早期に自宅に戻れるよう、横浜市では個人情報を守りながら身元を特定できる「見守りシール」を配布しています。この事業では衣服や持ち物に貼って使えるように、シールタイプ36枚とアイロンシートタイプ34枚の2種類をセットで配布します。



見守りシール(拡大イメージ)

配布シール

- シールタイプ(36枚入り) ●アイロンタイプ(34枚入り)
- 有効期限は1年間で、有効期限前に更新の案内が届きます。

対象者は以下の4つに該当している必要があります

- ①横浜市民であること。
- ②在宅生活をしている。(施設入所や長期入院の方を除く)
- ③「認知症高齢者等SOSネットワーク」*の事前登録と、県と警察への登録情報の提供に同意している。
- ④迎えに行くことのできる家族がいる事。

*SOSネットワークの概要は裏面参照

申し込みに必要なもの

「認知症高齢者等SOSネットワーク」*に登録していない人は、登録に写真や印鑑が必要な場合があります。詳しくは区役所またはお近くの地域ケアプラザにお問い合わせください。

ご利用イメージ

1

様子が気になる方を見かけたら…
まずは、「どちらにお出かけですか?」と優しく声をかけてみましょう。

2

衣服や持ち物に貼られたQRコードを読みとる
スマートフォンなどの携帯端末でQRコードを読み取り、表示されたID番号を控えます。

3

発見者がコールセンターに連絡
シールに記載の連絡先に電話し、QRコードで読み取ったID番号を伝えると、身元が判明します。
※発見者が登録済みの関連機関の場合のみ身元情報をお伝えします。

4

コールセンターが家族等へ連絡
コールセンターが事前登録情報を元に家族等へ連絡をします。
※発見者に警察への通報をお願いする場合があります。

※出典:横浜市健康福祉局高齢在宅支援課『横浜市認知症高齢者等見守りシール事業』より

都筑区は横浜市内で平均年齢が最も若く、現在都市開発が進行中の元気な区です。価値観や生活様式が多様化するなか、「都筑区に住んで良かった」と思える地域を上げるため、しっかりと皆さんの声を市政に届けてまいります。

横浜市議員 長谷川たくま

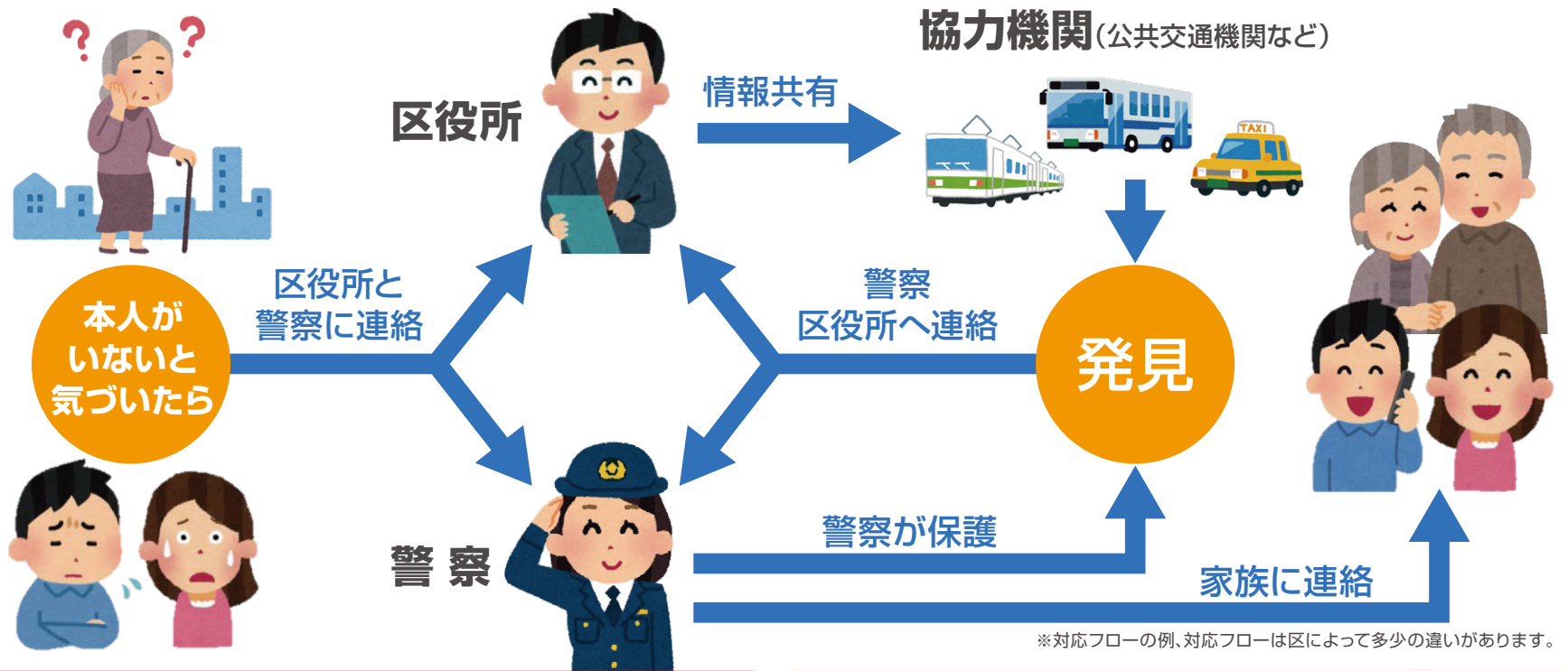
長谷川
たくま

www.hasegawatakuma.yokohama



「力強く たくましく」
自民党 横浜市議員

- 昭和54年生まれ
横浜市都筑区東方町在住
- 都田幼稚園 ●都田小学校
- 明治大学付属中野八王子中学高等学校
- 米・ネバダ州立大学 / 政治・国際関係学部
同大学院 政治学部比較政治学科 卒業
- 2015年4月横浜市会選挙 都筑区より初当選



※対応フローの例、対応フローは区によって多少の違いがあります。

この様な方を見かけたら ぜひお声がけを!

- ① 表情が疲れてぼんやりしている
- ② 不安そうにしている
- ③ 同じ場所を行ったり来たりしている
- ④ 道に座り込んでしまっている
- ⑤ 季節外れの服装やちぐはぐな靴など

対応の一例

- ① 優しく声をかける
- ② どこかへ行ってしまわないように見守る
- ③ 長時間歩いた可能性があるため、水など水分補給を勧める
- ④ 関係機関と連携をとる

長谷川たくまはこう思う

横浜市議員(都筑区選出)

誰もが安心して暮らせる社会を実現するための事業ですが、まだまだ認知度も低く、登録者数も少ない状態です。原因として考えられるのは他人への無関心で、この対策が一番難しい問題です。人との距離感を上手にとり、課題に対しては他人事とせず、自分の事と考え、助け合えるような社会を実現したいと思います。



子育て支援拠点

横浜市では就学前の子どもとその保護者が遊び、交流するスペースの提供、子育て相談、子育て情報の提供など、子育て支援の拠点の整備をしています。

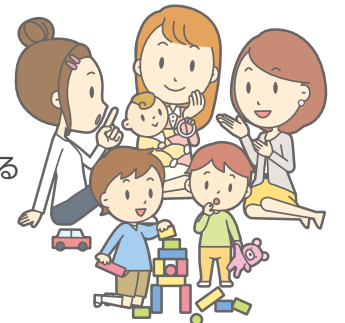
どんな場所?

妊娠中の方とその家族、そして就学前の子どもとその保護者が気軽に立ち寄り、自由に過ごせる**子育ての休憩所**のような場所です。



何ができる?

- ① 保護者と子どもが遊び交流できる場所がある
- ② ちょっとした子育ての悩みの相談ができる
- ③ 子育てに関する色々な情報がある
- ④ 子育てに関する施設・事業の利用を支援する
- ⑤ 子育て支援に関わる方と一緒に地域のネットワークを作る
- ⑥ 子育て支援に関わる方向けの研修をする
- ⑦ 地域での子どもの預かりあいをサポートする



都筑区にはPopola(ポポラ)

地下鉄「センター北」駅から徒歩2分

今年の秋、ららぽーと横浜にも。



交流する場所が必要な方には理由がある

- ① 国勢調査によると、小さな子どもがいる家庭が減り、誰とも相談できない親子が増加した
- ② 地域でのつながりの希薄化により、地域で子育て家庭が支えられながら子育てをすることが難しくなった
- ③ 子育て中の親の孤立が更に深刻になった



子どもとその保護者への子育て支援だけでなく、虐待や子育てによるうつなどの様々な予防にもつながる



長谷川たくまはこう思う

横浜市議員(都筑区選出)

横浜市では子育て支援拠点以外にも、集いの広場や赤ちゃん会、サロンなど、地域や民生委員・主任児童員さんなど様々な方による子育て支援が取り組まれています。どこに参加されても良いのです。ぜひ少し立ち寄り、子育てへの不安解消をしていただきたいと思います。「一人で悩まなくて良い。誰かに助けを求めて良い。」と実感するためにも、ぜひお立ち寄りください。